

みずほマーケット・トピック (2017年3月31日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さいませ。

1. 為替相場の動向 (関連レポート: 「みずほ Customer Desk Report」、 「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週後半にかけて上昇する展開。週初 27 日、110 円台後半でオープンしたドル/円相場は、前週末にトランプ政権による医療保険制度改革法 (オバマケア) 代替法案が撤回されたことを受けて年初来安値となる 110.11 円まで下落したが、米株価がマイナス幅を縮小したことや米長期金利の下げ渋る動きなどから 110 円台後半まで上昇した。28 日にはドル/円は再び週安値近辺まで値を下げる場面が見られるも、米 3 月消費者信頼感指数の良好な結果や原油価格の上昇を背景に米株価が堅調推移すると 110 円台後半まで上昇。その後、フィッシャーFRB 議長のタカ派な発言に米長期金利が上昇し、ストップロス巻き込みながら、ドル/円は 111 円台前半まで上伸した。翌 29 日、米長期金利の低下やユーロ/円の下落に伴い、ドル/円は 110 円台後半まで下落したが、米 2 月中古住宅販売仮契約の良好な結果やローゼンブレン・ポストン連銀総裁やウィリアムズ・サンフランシスコ連銀総裁からの追加利上げに前向きな発言も後押しし、111 円台前半で底堅く推移した。30 日には、米 10~12 月期 GDP(3 次速報)の上方修正を好感すると、ドル/円は 111 円台後半まで上昇。その後も米長期金利の上昇や原油価格の上昇を背景に、ドル/円は 111.94 円をつけた。本日にかけては、ドル/円は一時週高値となる 112.18 円まで上昇する場面も見られ、現在も 112 円近辺で底堅い推移が継続している。
- 今週のユーロ相場は軟調な展開。週初 27 日、1.08 台半ばでオープンしたユーロ/ドルは、オバマケア代替法案の撤回を受けドル売りが強まると、一時年初来高値となる 1.0906 まで上昇したが、このレベルでは売り意欲も強く 1.08 台後半に押し戻された。28 日は、翌日に英国の EU 離脱 (Brexit) に関するリスボン条約第 50 条の正式通告を控え、ユーロ/ドルは 1.08 台後半で上値重く推移する中、米長期金利上昇を受けたドル買いに 1.07 台後半まで下落。29 日は、リスボン条約第 50 条の正式通知や、フランス大統領選の世論調査において、極右政党である国民戦線 (FN) のルペン氏がマクロン氏に支持率で追いついたことでリスク回避の動きが強まり、ユーロ/ドルは 1.07 台前半まで値を下げた。翌 30 日は独 3 月消費者物価指数の弱い結果を嫌気しユーロ売りが強まると、米長期金利上昇を受けたドル買いも相俟って、ユーロ/ドルは一時週安値となる 1.0672 まで下落した。本日にかけてもユーロ/ドルは 1.06 台後半の週安値圏での推移が継続している。

今週のおもな金融市場動向 (出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		3/24(Fri)	3/27(Mon)	3/28(Tue)	3/29(Wed)	3/30(Thu)
ドル/円	東京9:00	111.00	110.55	110.77	111.22	111.15
	High	111.48	111.25	111.20	111.31	111.94
	Low	110.63	110.11	110.18	110.71	110.94
	NY 17:00	111.38	110.67	111.15	111.05	111.94
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0784	1.0847	1.0861	1.0817	1.0759
	High	1.0818	1.0906	1.0872	1.0825	1.0772
	Low	1.0760	1.0805	1.0799	1.0740	1.0672
	NY 17:00	1.0798	1.0861	1.0815	1.0765	1.0675
ユーロ/円	東京9:00	119.67	119.88	120.30	120.29	119.57
	High	120.24	120.32	120.40	120.44	119.84
	Low	119.53	119.55	119.71	119.06	119.09
	NY 17:00	120.24	120.22	120.20	119.56	119.43
日経平均株価	19,262.53	18,985.59	19,202.87	19,217.48	19,063.22	
TOPIX	1,543.92	1,524.39	1,544.83	1,542.07	1,527.59	
NYダウ工業株30種平均	20,596.72	20,550.98	20,701.50	20,659.32	20,728.49	
NASDAQ	5,828.74	5,840.37	5,875.14	5,897.55	5,914.34	
日本10年債	0.07%	0.06%	0.06%	0.06%	0.07%	
米国10年債	2.41%	2.38%	2.42%	2.38%	2.42%	
原油価格 (WTI)	47.97	47.73	48.37	49.51	50.35	
金 (NY)	1,251.70	1,258.80	1,258.80	1,256.80	1,248.00	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・米国では、3日(月)に3月ISM製造業景気指数、4日(火)に2月貿易収支、2月耐久財受注(確報)、5日(水)に3月ADP雇用統計、3月ISM非製造業景気指数、7日(金)に3月雇用統計が発表される。3月については、調査週にあたる3月第2週(12日を含む週)の新規失業者保険申請数は、趨勢を示す4週移動平均で24.7万人と2月(24.6万人)から僅かに増加している。そうした計数も踏まえ、市場では3月非農業部門雇用者数が前月比+17.4万人と2月(同+23.5万人)から減速すると予想されている。
- ・金融政策関連では、5日(水)に前回FOMC議事要旨(3月14~15日開催分)が公表される。前回FOMCでは市場予想通り、昨年12月以来3か月ぶりに+0.25%ポイントの利上げが決定された。注目されたFOMCメンバーによる政策金利見通し(ドットチャート)では、2017年中の利上げ見通し(中央値)に関し、3回と前回12月分からの見通しが据え置かれた。また、スタッフ経済見通しや声明文冒頭の総括判断も大きな変更はなされていない。前回FOMCにかけては、経済・金融指標が大幅な改善を示したとも言えないなか、FRB高官によるタカ派色の強い発言が相次いだことが市場の利上げ織り込みに繋がった。もっとも、そうしたタカ派発言にはやや唐突感があり、FOMCメンバーの間にトランプ政権下で交代させられる前に利上げを行いたいとの思惑も働いたと考えられる。そのため、今回の議事要旨では利上げの理由に関して、メンバー間でどのような議論があったかが注目される。このほか、3日(月)にハーカー・フィラデルフィア連銀総裁、ラッカー・リッチモンド連銀総裁、4日(火)にタルーロFRB理事、6日(木)にウィリアムズ・サンフランシスコ連銀総裁の講演が予定されている。
- ・欧州では、3日(月)にユーロ圏2月生産者物価指数(PPI)、ユーロ圏2月失業率、4日(火)にユーロ圏2月小売売上高が発表される。また、6日(木)にECB理事会議事要旨(3月9日開催分)が公表され、7日(金)~8日(土)にかけてユーロ圏財務相会合、EU経済・財務相理事会が開催される。
- ・本邦では、3日(月)に日銀短観(3月調査)、6日(木)に3月消費動向調査、7日(金)に2月毎月勤労統計、2月景気動向指数(速報)が発表される。

	本 邦	海 外
3月31日(金)	—————	・米2月個人所得/個人支出 ・米2月PCEデフレーター ・米3月シカゴ購買部協会景気指数 ・米3月ミシガン大学消費者マインド(確報) ・ユーロ圏3月消費者物価(速報)
4月3日(月)	・日銀短観(3月調査) ・3月自動車販売台数	・米3月ISM製造業景気指数 ・米2月建設支出 ・ユーロ圏2月失業率
4日(火)	・3月マネタリーベース	・米2月貿易収支 ・米2月製造業新規受注
5日(水)	—————	・米3月ADP雇用統計 ・米3月ISM非製造業景気指数 ・米FOMC議事要旨(3月14~15日開催分)
6日(木)	—————	・独2月製造業受注
7日(金)	・2月毎月勤労統計 ・2月景気動向指数(速報)	・米3月雇用統計 ・米2月卸売在庫(確報) ・米2月卸売売上高 ・米2月消費者信用残高 ・独2月鉱工業生産 ・独2月貿易収支

【当面の主要行事日程(2017年4月~)】

- フランス大統領選挙(4月23日(第一回)、5月7日(決戦投票))
- 日銀金融政策決定会合(4月26~27日、6月15~16日、7月19~20日)
- ECB理事会(4月27日、6月8日、7月20日)
- 米FOMC(5月2~3日、6月13~14日、7月25~26日)
- ユーロ圏財務相会合・EU経済財務相理事会(5月22~23日)

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、确实性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2017年4月)

月	火	水	木	金	週末
					1
3 日本 短観(3月調査) 日本 自動車販売台数(3月) 米国 ISM製造業景気指数(3月) 米国 建設支出(2月) ユーロ圏 失業率(2月)	4 日本 マネタリーベース(3月) 米国 貿易収支(2月) 米国 製造業新規受注(2月)	5 米国 ADP雇用統計(3月) 米国 ISM非製造業景気指数(3月) 米国 FOMC議事要旨(3月14-15日開催分)	6 ドイツ 製造業受注(2月)	7 日本 毎月勤労統計(2月) 日本 景気動向指数(速報、2月) 米国 雇用統計(3月) 米国 卸売在庫(速報、2月) 米国 卸売売上高(2月) 米国 消費者信用残高(2月) ドイツ 鉱工業生産(2月) ドイツ 貿易収支(2月)	
10 日本 国際収支(2月) 日本 景気ウォッチャー調査(3月) 日本 企業倒産件数(3月) 米国 労働市場情勢指数(3月)	11 ユーロ圏 鉱工業生産(2月) ドイツ ZEW景況指数(4月)	12 日本 機械受注(2月) 日本 貸出・預金動向(3月) 米国 財政収支(3月)	13 日本 マネーストック(3月) 日本 国内企業物価(3月) 米国 生産者物価(3月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、4月)	14 日本 鉱工業生産(速報、2月) 米国 消費者物価(3月) 米国 小売売上高(3月) 米国 企業在庫(2月)	
17 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(4月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、2月)	18 米国 住宅着工(3月) 米国 鉱工業生産(3月)	19 米国 ベージュブック ユーロ圏 消費者物価(速報、3月) ユーロ圏 貿易収支(3月)	20 日本 貿易収支(3月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(4月) 米国 景気先行指数(3月) ワシントンD.C. G20財務相・中央銀行総裁会議(～21日)	21 日本 第三次産業活動指数(2月) 米国 中古住宅販売(3月) ユーロ圏 製造業PMI、サービス業PMI(4月) ユーロ圏 経常収支(2月) ワシントンD.C. IMF・世界銀行春季総会(～23日)	23 フランス大統領選挙(第一回)
24 日本 景気動向指数(速報、2月) ドイツ IFO企業景況指数(4月)	25 日本 企業向けサービス価格(3月) 米国 S&P/コアロジックケース・シラー住宅価格(2月) 米国 新築住宅販売(3月) 米国 消費者信頼感指数(4月)	26 日本 日銀金融政策決定会合(～27日)	27 日本 金融政策決定会合・展望(基本的見解) 米国 耐久財受注(速報、3月) 米国 卸売在庫(速報、3月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)	28 日本 家計調査(3月) 日本 労働力調査(3月) 日本 全国消費者物価(3月) 日本 東京都部消費者物価(4月) 日本 鉱工業生産(速報、3月) 日本 商業販売統計(3月) 日本 新設住宅着工(3月) 米国 雇用コスト(1～3月期) 米国 GDP(1次速報、1～3月期) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(4月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、4月)	29

[注]*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
[資料]ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2017年5月)

月	火	水	木	金	週末
<p>1</p> <p>日本 自動車販売台数(4月)</p> <p>米国 個人所得・消費(3月)</p> <p>米国 PCEコアデフレーター(3月)</p> <p>米国 ISM製造業景気指数(4月)</p> <p>米国 建設支出(3月)</p>	<p>2</p> <p>日本 金融政策決定会合議事要旨(3月15-16日開催分)</p> <p>日本 マネタリベース(4月)</p> <p>米国 FOMC(-3日)</p> <p>ユーロ圏 失業率(3月)</p>	<p>3</p> <p>米国 ADP雇用統計(4月)</p> <p>米国 ISM非製造業景気指数(4月)</p> <p>ユーロ圏 GDP(速報値、1-3月期)</p>	<p>4</p> <p>米国 労働生産性(速報、1-3月期)</p> <p>米国 貿易収支(3月)</p> <p>米国 製造業新規受注(3月)</p> <p>米国 耐久財受注(確報、3月)</p>	<p>5</p> <p>米国 雇用統計(4月)</p> <p>米国 消費者信用残高(3月)</p>	<p>7</p> <p>フランス大統領選挙(決戦投票)</p>
<p>8</p> <p>日本 *企業倒産件数(4月)</p> <p>米国 労働市場情勢指数(4月)</p> <p>ドイツ 製造業受注(3月)</p>	<p>9</p> <p>日本 毎月勤労統計(3月)</p> <p>米国 卸売在庫(確報、3月)</p> <p>米国 卸売売上高(3月)</p> <p>ドイツ 鉱工業生産(3月)</p> <p>ドイツ 貿易収支(3月)</p>	<p>10</p> <p>日本 日銀金融政策決定会合による主な意見(4月26-27日開催分)</p> <p>日本 景気動向指数(速報、3月)</p> <p>米国 財政収支(4月)</p>	<p>11</p> <p>日本 国際収支(3月)</p> <p>日本 貸出・預金動向(4月)</p> <p>日本 景気ウォッチャー調査(4月)</p> <p>米国 生産者物価(4月)</p> <p>パナマ(イタリア)</p> <p>G7財務相・中央銀行総裁会議(-13日)</p>	<p>12</p> <p>日本 マネーストック(4月)</p> <p>日本 国内企業物価(4月)</p> <p>米国 消費者物価(4月)</p> <p>米国 小売売上高(4月)</p> <p>米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、5月)</p> <p>米国 企業在庫(3月)</p> <p>ユーロ圏 鉱工業生産(3月)</p> <p>ドイツ GDP(1-3月期、速報)</p>	
<p>15</p> <p>米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(5月)</p> <p>米国 TICレポート(対外対内証券投資、3月)</p>	<p>16</p> <p>日本 第三次産業活動指数(3月)</p> <p>米国 住宅着工(4月)</p> <p>米国 鉱工業生産(4月)</p> <p>ユーロ圏 貿易収支(3月)</p> <p>ドイツ ZEW景況指数(5月)</p>	<p>17</p> <p>日本 機械受注(3月)</p> <p>日本 鉱工業生産(確報)、3月</p> <p>ユーロ圏 消費者物価(確報、4月)</p>	<p>18</p> <p>日本 GDP(速報、1-3月期)</p> <p>米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(5月)</p> <p>米国 景気先行指数(4月)</p>	<p>19</p> <p>ユーロ圏 経常収支(3月)</p>	
<p>22</p> <p>日本 貿易収支(4月)</p> <p>日本 景気動向指数(確報、3月)</p> <p>ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル)</p>	<p>23</p> <p>米国 新築住宅販売(4月)</p> <p>ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ブリュッセル)</p> <p>ドイツ GDP(確報、1-3月期)</p> <p>ドイツ IFO企業景況指数(5月)</p>	<p>24</p> <p>米国 中古住宅販売(4月)</p> <p>米国 FOMC議事要旨</p> <p>ユーロ圏 製造業PMI、サービス業PMI(5月)</p>	<p>25</p> <p>米国 卸売在庫(速報、4月)</p>	<p>26</p> <p>日本 全国消費者物価(4月)</p> <p>日本 東京都都区消費者物価(5月)</p> <p>日本 企業向けサービス価格(4月)</p> <p>米国 GDP(2次速報、1-3月期)</p> <p>米国 耐久財受注(速報、4月)</p> <p>米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、5月)</p> <p>タホルミナー(イタリア)</p> <p>G7首脳会議(-27日)</p>	
<p>29</p>	<p>30</p> <p>日本 労働力調査(4月)</p> <p>日本 家計調査(4月)</p> <p>日本 商業販売統計(4月)</p> <p>米国 個人消費・所得(4月)</p> <p>米国 S&P/コアロジックケース・シラー住宅価格(3月)</p> <p>米国 消費者信頼感指数(5月)</p>	<p>31</p> <p>日本 鉱工業生産(速報、4月)</p> <p>日本 新設住宅着工(4月)</p> <p>米国 シカゴ購買部協会景気指数(5月)</p> <p>米国 ベージュブック</p> <p>ユーロ圏 失業率(4月)</p> <p>ユーロ圏 消費者物価(速報、5月)</p>			

[注]*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
 (資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2017年3月30日	ユーロ圏の物価に関する現状と展望～ECBへの影響～
2017年3月29日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年2月分)
2017年3月28日	メインシナリオのリスク点検～要警戒の4月中旬～
2017年3月24日	週末版(英EU離脱の正式通告について～当面の展望や為替見通し～)
2017年3月22日	ドル/円相場の水準感について～112円割れを受けて～
2017年3月21日	バーデンバーデンG20を受けて～前哨戦は米国に軍配～
2017年3月17日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～再確認したい現行枠組みの脆弱性～)
2017年3月16日	FOMCを受けて～さほどハト派にあらず～
2017年3月15日	米インフレ期待低迷から何を讀むか～FOMCを前に～
2017年3月14日	円相場の基礎的需給環境～窮屈になる対外証券投資の環境～
2017年3月13日	ECB理事会を受けて～対米配慮と対独配慮に苦悶～
2017年3月10日	週末版
2017年3月3日	週末版
2017年3月2日	本邦輸出企業の採算レートやそこから推測される展開
2017年3月1日	ECB理事会プレビュー～進むも地獄、戻るも地獄～
2017年2月27日	ECB、公的部門購入プログラム(PSPP)の現状と展望
2017年2月24日	週末版(メインシナリオのリスク点検～問題の所在は全く変わらず～)
2017年2月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年1月分)
2017年2月21日	ユーロ圏投資ファンド統計～ユーロ安の底流にあるもの～
2017年2月20日	ECB理事会議事要旨～窮屈になる追加緩和の環境～
2017年2月17日	週末版(米12月対内・対外証券投資(TICレポート)～対米資本フローに表れる不自信～)
2017年2月15日	イエレンFRB議長議会証言を受けて～正常化を止めるのはドル高か～
2017年2月14日	ドル高を信用できない金融市場の現状～需給への影響も～
2017年2月13日	日米首脳会談を終えて～円高警戒は解けず～
2017年2月10日	週末版(再燃する対ドイツ格差問題～新しい欧州経済・金融のテーマ～)
2017年2月9日	円相場の基礎的需給環境～2016年国際収支を受けて～
2017年2月3日	週末版(トランプ大統領が日本を付け狙う理由～「返り血」が少ない喧嘩相手?～)
2017年2月1日	日銀金融政策決定会合～トランプとFTPLの狭間で～
2017年1月30日	メインシナリオのリスク点検～不幸を生むドル高は続かず～
2017年1月27日	週末版
2017年1月26日	日銀による国債買い入れオペ見送り～為替からの読み方～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年12月分)
2017年1月25日	貿易収支の調整経路～「理不尽な円高」は不可避か～
2017年1月23日	ECB理事会を終えて～窮屈になる緩和環境～
2017年1月20日	週末版
2017年1月19日	改善が顕著なユーロ圏の与信・物価状況～ECBは慢心せず～
2017年1月18日	メイ英首相演説を受けて～反EUの「悪い見本」になるのか?～
2017年1月17日	目の敵にされる4つの通貨～対米黒字を稼ぐ「悪」の枢軸?～
2017年1月16日	ECB理事会プレビュー～「可能な限り、現状維持」が本音～
2017年1月13日	週末版(円相場における実需と投機の現状について～対外証券投資にまつわる懸念事項も～)
2017年1月12日	トランプ次期大統領会見について～トランプはトランプのまま～
2017年1月11日	「国際金融のトリレンマ」を通じた日中比較
2017年1月6日	週末版(外貨準備構成通貨の現状(2016年9月末時点)～ユーロの独り負けだった過去3年～)
2017年1月5日	FOMC議事要旨(12月13～14日開催分)を受けて
2017年1月4日	2017年のドル相場について～空中戦はどこまで続くか～
2016年12月27日	2017年、為替相場の動向～実効ベースで複眼的に～
2016年12月26日	2017年のフラックスワンはどこに現れるのか?
2016年12月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年11月分)
	週末版
2016年12月19日	メインシナリオのリスク点検～「守りの姿勢」継続を～
2016年12月16日	週末版(メキシコペソはドル高相場を阻むか～避けて通れない政治的通貨～)
2016年12月15日	FOMC(12月13～14日開催分)を終えて
2016年12月13日	米金利高・ドル高の影響～「熱する前に冷やす」怖さ～
2016年12月12日	円相場における実需と投機の現状について
2016年12月9日	週末版(ECB理事会を終えて～2016年は「QEの終わり」を告げる年に～)
2016年12月7日	日米金利差から見たドル/円相場の水準感などについて
2016年12月6日	イタリア国民投票レビューとECB理事会プレビュー
2016年12月5日	トランプノミックスのリスクとなる米国の完全雇用状態
2016年12月2日	週末版(トランプノミックスを左右する米製造業マインド～通貨政策のパロメーターに～)
2016年12月1日	イタリア国民投票レビュー
2016年11月28日	ユーロ相場の展望～来年底打ちも政治リスクは重荷～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年10月分)
2016年11月25日	週末版(メインシナリオに対するリスクの整理～円安リスク、「現実味」は帯びたが「現実化」はまだ先～)
2016年11月24日	日米金融政策比較と為替への含意～格差は拡大の一途だが～
2016年11月22日	真空地帯に入るドル/円相場～暫定見通し～
2016年11月21日	チキンレースと化すドル高相場～レーガノミックスとの比較～
2016年11月18日	週末版
2016年11月17日	イタリア国民投票に関するQ&A
2016年11月16日	円の基礎的需給環境の現状と展望
2016年11月15日	トランプノミックスを巡る2つのシナリオ
2016年11月14日	トランプノミックス相場に関するQ&A
2016年11月11日	週末版(トランプ次期大統領のポリシーミックス～随所に見られる矛盾をどう捉えるか～)
2016年11月10日	トランプ大統領誕生と為替相場見通しへの影響
2016年11月8日	実質ドル/円相場の現状～「超異常」から「異常」そして「正常」へ～
2016年11月7日	米10月雇用統計を受けて～「最後の灯火」の可能性も念頭に～
2016年11月4日	週末版(FOMCを終えて～焦点は3回目、4回目の利上げに～)
2016年11月2日	日銀金融政策決定会合を終えて～無味無臭の政策運営へ～
2016年10月28日	週末版
2016年10月27日	ドル高相場の調整が進まない背景～実効相場の観点から～
2016年10月26日	円高シナリオにまつわるリスクの整理
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2016年9月分)
2016年10月25日	日銀金融政策決定会合プレビュー～もう表舞台に立ちたくない～
2016年10月24日	ECB理事会を終えて～ECB版総括的検証の行方～
2016年10月21日	週末版
2016年10月20日	最近の対内・対外証券投資動向と為替について
2016年10月19日	英ポンド急落の読み方～通貨安競争の勝ち組②～
2016年10月18日	英ポンド急落の読み方～通貨安競争の勝ち組①～
2016年10月17日	米為替政策報告書を受けて～ドル高忌避変わらず～
2016年10月14日	週末版
2016年10月7日	週末版
2016年10月5日	ECBのテーバリング観測～予想すべきは真逆の方向～